〈いわき地方振興局長賞〉

私にとっての「税金」

いわき市立川部中学校
３年　園部　智惟

税金とは「国家または地方公共団体に租税として納める金銭」である。現在の社会で人々は少なからず、この「税金」を嫌悪しているのではないだろうか。実際、私もその一人だった。消費税は１０パーセントとなり、何を買うにしても以前よりお金がかかるようになった。私の両親が自動車税を払っているのを見て、その金額に驚いたこともあった。たくさんの苦労を目にしていく中で、私の中の「税金」に対する考えが変わったのはつい最近のことだ。

私は田舎に住んでいるのだが、最近、家の近くで橋や道路の改修工事が行われた。以前までトラックやダンプカーが通ってへこんでいた道は平坦できれいになり、橋は補強され頑丈になった。なぜこのような工事が行われたのか父に聞くと、市民の安全のために税金が使われたそうだ。税金がどのように使われているのか、小学生の頃、少し学んだことがあるが、こんなにも身近に感じたことは初めてだった。そこで、私は税金について改めて詳しく調べてみることにした。納められた税金は道路の建設や修理、社会保険、ゴミの処理費や教育費など様々なことに使われているそうだ。その中でも特に身近に感じた使い道は、学校での教育費だ。学生である私は、教科書や机、椅子、学校で使う教材を税金で買い、無償で利用している。もし、税金がなければ、これらの費用を全て自分で負担する必要がある。調べた上でこれまでの生活を思い返してみると、中学生までの医療費が税金で負担されるため、怪我をした際に多額のお金がかからなかった経験もあれば、祖母の介護料金の一部には税金が使われていて助かるという話を聞いた経験もあった。普段は意識していなかったが、私たちの生活の中の様々な場面で税金が利用されていることが分かった。

私は今まで、中学生である自分が国の予算を払わなければいけないことが不満だった。しかし、こんなにも身近で税金が使われ、それによって自らの生活が支えられていることを知って、税金の大切さを理解するとともに、自分が納税者であることに誇りを持つことができた。これからは税金の意味を考えながら、自分の払う税金が今もどこかで人の役に立っているかもしれないという気持ちで納められたらよいと思う。また、私はこのことをもっと多くの人々に知ってほしいと思う。税金の問題点は払うことに意識がいき、その後どう使われるのかがあまり人に知られていないことだ。だから、私のように税金に嫌悪感をいだいてしまう人が出てきてしまうのだろう。税金による日々のメリットを明確に提示し、税金を払うことに意味を見出して、国民一人一人がそのような意識をもって税金を納められるようになれば、「税金」というものへの認識が変わるのではないだろうか。そうすれば、未来は税金によってもっと潤うだろう。